

# 令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和5年10月23日  
愛知県 県

1 病害虫名：トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2 確認地域：尾張地域、東三河地域

3 本県における発生確認の経過

令和5年10月10日、農林水産省名古屋植物防疫所が中部国際空港及び豊橋港湾合同庁舎敷地内に設置したトマトキバガ侵入調査用フェロモントラップにおいて、トマトキバガが誘殺された（名古屋植物防疫所同定）。なお、トマトほ場周辺に設置したフェロモントラップにおける誘殺及び農作物の被害は確認していない。

4 全国における発生状況

本種は、令和3年11月に初めて熊本県で特殊報が発表された後、沖縄県から北海道までの計31道府県で誘殺が確認されている（令和5年10月18日現在）。

5 本種の形態及び生態

(1) 形態

成虫（写真1）は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一様に淡黒褐色である。幼虫（写真2）は、終齢で約8mmとなる。体色は淡緑色～淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

(2) 生態

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度だが、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。卵は、寄主植物の葉の裏面などに産み付けられる。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

(3) 被害

ナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科であるインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真3）。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗する（写真4）。

## 6 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) 施設栽培で防虫ネット未設置の場合は、コナジラミ類対策も兼ねてハウスの開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置し、本虫のハウス内への侵入を防止する。
- (3) ほ場で発生が認められた場合は、発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

トマトキバガの発生が疑われた場合は下記の連絡先までお知らせください。

## 7 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085 内線471



写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ幼虫



写真3 トマトキバガによる葉の食痕  
写真は全て農林水産省植物防疫所原図



写真4 トマトキバガによる果実被害

表 トマトキバガに登録のある農薬（散布）令和5年10月11日現在

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	適用作物		IRAC コード
				トマト	ミニトマト	
ディアナSC	2,500～	収穫前日まで	2回以内	○	○	5
ラディアントSC	5,000倍					
ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	6
アグリメック	500～ 1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○		
アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	11A
エスマルクDF	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	○	○	
コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	13
トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		22A
アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	22B
フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	28
ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	30
グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	
プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	UN

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。